

・見開き表示について

体験版.pdf - Adobe Reader
 ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

表示を回転(V) ページナビゲーション(N)

ページ表示(P)

- 単一ページ表示(S)
- スクロールを有効にする(C)
- 見開きページ表示(P)
- 見開きページでスクロール(I)
- 他のページとの間にスペースを表示(S)
- 見開きページ表示で表紙を表示(Y)
- 自動スクロール(Y) Shift+Ctrl+H

Chapter 28 自己分析

体において「メロディーやリズム」との2点です。

1曲を通して登場する音型は「a」のような16分音符の連続と「b」のメロディーがほとんどです。もちろんこれ以外にも使われている音型はありますが、終始16分音符が曲全体を支配しており、リズム的な工夫がほぼ欠如した楽曲であると言えます。

Fig28-3 は Fig28-2 の曲 (書徴) で中核を成している音型ですが、基本的に「a」と「b」の要素で曲全体が成り立っています。歌詞が付くような美しいメロディーもなければ、ずっと同じようなリズムが続いてリズムに工夫があるとは言えませんが、ハーモニーに関して極めて工夫がなされているのがわかるでしょうか？

多彩な転調や旋法などハーモニーに関して多数の工夫がなされており、かなり複雑になっています。楽譜を頭から見ながらどの部分がどんなコードになっている、転調や旋法などがどうなっているか数分~数十分使って分析してみ

パソコンでご覧になる場合は Adobe Reader の「表示」→「ページ表示」→「見開きページ表示」を選択すると見開きでご覧頂けます。

・検索機能について

体験版.pdf - Adobe Reader
 ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

元に戻す(U) Ctrl+Z
 やり直し(R) Shift+Ctrl+Z

切り取り(I) Ctrl+X
 コピー(C) Ctrl+C
 貼り付け(P) Ctrl+V
 削除(D)

すべてを選択(L) Ctrl+A
 選択を解除(E) Shift+Ctrl+A

ファイルをクリップボードにコピー(B)

スナップショット(A)

スペルチェック(K)

簡易検索(E) Ctrl+F
 高度な検索(V) Shift+Ctrl+F

保護(I)
 分析(S)
 アクセシビリティ(Y)

環境設定(N)... Ctrl+K

体験版なのでページジャンプしています。 Chapter 23 転調

Key - Fm Key - G#m

D b M7 B b m7 (9) B b m7 (11) E b E b = D# G#m

そこで うずくまってるの? ぼくたち

b VII m7 IV m7 IV m7 b VII b VII I m

ハーモニック転換することでKey - FmからKey - G#mへ転調してます。
 可能性に限りがあるためエンハーモニック転換することで転調の可能性を広げています。

Fig23-59 は Key - Fm から Key - G#m へ転調している例です。筆者のボーカロイド曲の「STAR☆BIRD」という曲の B メロの終わりからサビにかけての転調部分ですが、B メロの最後の E b のコードを D# にエンハーモニック転換しています。

こうすることによって E b というコードからは発想できないキーに転調するアイデアを得ています。E b と言われてしまうとどうしても b 系のキーへの転調に限定されがちですが、D# と読み替えると # 系のキーへの転調の道筋も見えてくるわけですね。

調べたい用語がわかっている時は「編集」→「簡易検索」(Ctrl+F) で検索を掛けることができます。